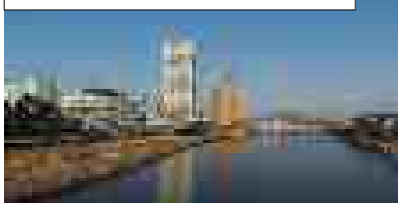




最勝院
 「御朱印高拾五石」「往還より町程引込有之、手狭也」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)
 延元元年(1336)春日部治部少輔時賢(春日部重行)は北朝側の足利尊氏軍と京都の森で戦うが敗北し自刃した(延元の乱)。遺骨は長男の家綱が春日部に持ち帰り最勝院へ埋葬した。
 三代將軍徳川家光の遺骸を一時安置。明治26~30年千住馬車鉄道の終点となる。粕壁3-9-20



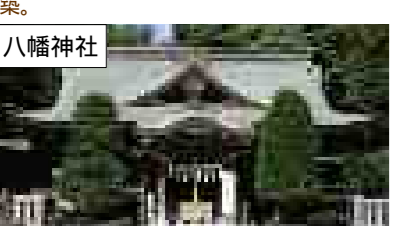
成就院
 古利根公園橋から新町橋の景色



②古利根川に架かる新町橋
 江戸時代には大橋、粕壁大橋、八丁目橋と呼ばれていた板橋であった。「粕壁宿の北に有。此川古利根川と云」(日光駅程見聞雑記)橋を渡ると幸手領八丁目村の集落だった。



山田商店
 「紙荒物塩粕干鯛・山田半六」(東講商人鑑 安政2年 1855)享保(1716~36)頃からの老舗。今の建物は幕末の建築。



大崎八幡神社
 創建年度は不詳。一説には元弘年間(1331~1334)に、新田義貞に仕えた武將、春日部治部少輔重行が鶴岡八幡宮から勧請し創建。そのため、春日部八幡神社では武内宿禰命が祭られており、また特徴となっている。
 明治6年(1873)、郷社に列格され、同40年(1907)4月に幣帛供進社に指定された。
 入口鳥居左に都鳥の碑がある。嘉永6年(1853)に名主関根孝燕(こうえん)が千種正三位源有に依頼して建てた。在原業平が奥州に旅をしたとき、武蔵国と下総国境にある隅田川の渡しに、今まで見たことのない、赤い翼の白い鳥を見て、渡し守に尋ねると「都鳥」と答えた。京都を思い「名にし負はば いざ言問はん都鳥 わが思う人は ありやなしや」と詠んだという。



左、香取神社、右、仲蔵院



②④香取神社 仲蔵院
 八丁目八坂香取稲荷神社には和算家栗原伝三郎奉納の算額(郷土資料館展示)がある。



②③上喜蔵河岸跡
 埋め立てられたが、島源の裏にわずかに石積みが残る。



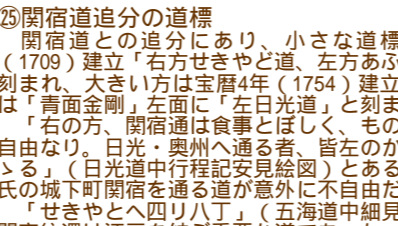
②古隅田川十刃渡し跡
 明治23年(1890)梅田村に居住する個人が橋を架けることを県知事あてに願っていました。翌年に橋が架けられ渡り賃が十文だったので十文橋とよばれた。浜川戸公園



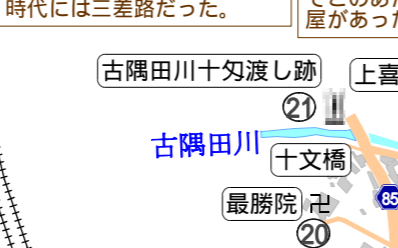
春日部氏館跡
 八幡公園、八幡神社・稲荷神社を含めこの周辺はかつて、春日部市の市名の由来となった鎌倉幕府の御家人「春日部氏」の館があったと推定される場所です。その屋敷跡の一部を整備したのが八幡公園である。



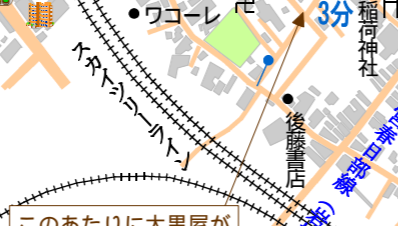
②⑤関宿道追分の道標
 関宿道との追分にあり、小さな道標は宝永6年(1709)建立「右方せきやど道、左方あふしう道」と刻まれ、大きい方は宝暦4年(1754)建立で、正面には「青面金剛」左面に「左日光道」と刻まれている。「右の方、関宿通は食事とほしく、ものごと至て自由なり。日光・奥州へ通る者、皆左のかた杉戸へかゝる」(日光道中行程記安見絵図)とあるように久世の城下町関宿を通る道が意外に不自由だった。「せきやとへ四り八丁」(五海道中細見独案内)関宿往還は江戸を結ぶ重要な道であった。



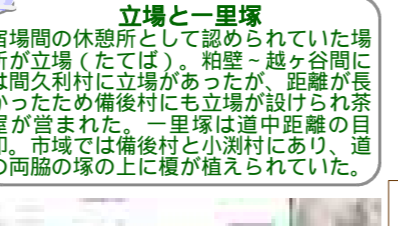
高札場は、幕府のお触れを掲げる。今は交差点だが、江戸時代には三差路だった。



橋を渡ると幸手領でこのあたりに茶屋があった



このあたりに大黒屋があって「太物木綿糸・遠房屋吉蔵」(東講商人鑑)の子孫で大きな家である。



立場と一里塚
 宿場間の休憩所として認められていた場所が立場(たてば)。粕壁~越ヶ谷間には間久利村に立場があったが、距離が長かったため備後村にも立場が設けられ茶屋が営まれた。一里塚は道中距離の目印。市域では備後村と小淵村にあり、道の両脇の塚の上に榎が植えられていた。



左側の歩道歩く



歩道はないが落ち着いた静かな道



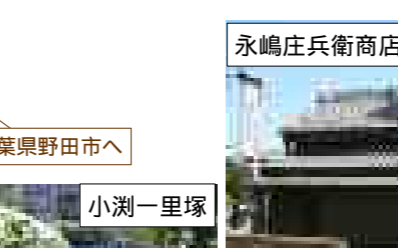
上宿は宿場の要地で本陣、名主屋敷、問屋場などが設けられていた。



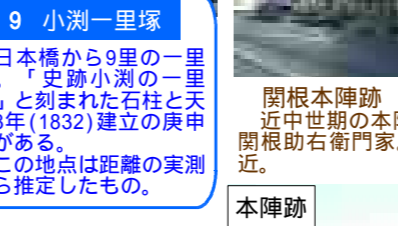
中宿と呼ばれ、4と9の市日には見世物や露店が建ち並び、商業の中心であった。



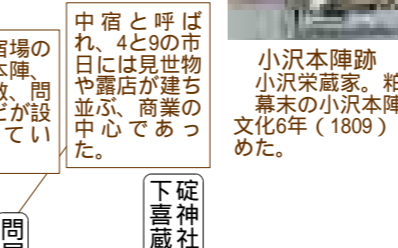
春日部駅東口
 東武鉄道春日部駅
 古代から先住民が暮らし水田を作っていたこの地は、安閑(あんかん)天皇の妃(きさき)・春日山田皇女(かすがのやまだのみみこ)が地名の起源とされ、平安末期に春日部重行の所領となり地名となったのが現在の駅名です。江戸時代は、日光街道の重要な宿場町であり、米麦の集散地として経済の中心地でした。開設当時は「粕壁駅」でしたが改称しました。



9 小淵一里塚
 日本橋から9里の一里塚。「史跡小淵の一里塚」と刻まれた石柱と天保3年(1832)建立の庚申塔がある。この地点は距離の実測から推定したもの。



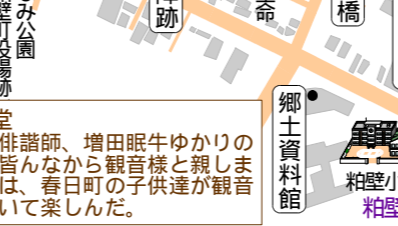
「ほう珠花道ニリヨ」(五海道中細見独案内)



三上於菟吉没地



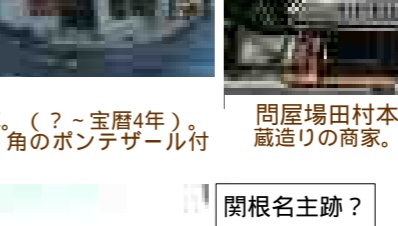
小沢本陣跡
 小沢米蔵家。粕壁東1-21-16 幕末の小沢本陣。見川名主本陣の後、文化6年(1809)~嘉永2年(1849)を勤めた。



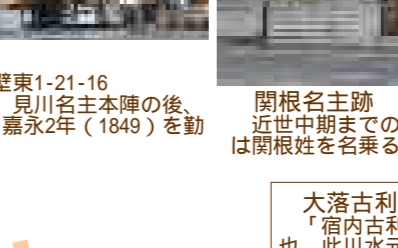
高砂本陣
 「御本陣・高砂屋彦右衛門」跡(五海道中細見独案内)幕末に本陣も勤める。明治9年(1876)明治天皇行在所。天保2年(1831)浄瑠璃芝居の染太夫一行が宿泊。



永嶋庄兵衛商店
 慶長年間(1596~1615)玄米問屋として営業を開始。以来、代々営業を引き継ぎ、現在に至る。



関根本陣跡
 近中世期の本陣。(?-宝暦4年)。関根右衛門家。角のポンテザール付近。



本陣跡



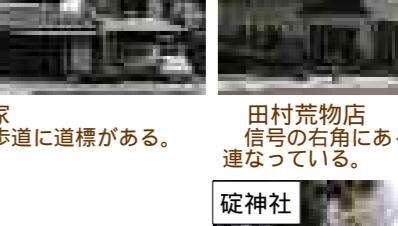
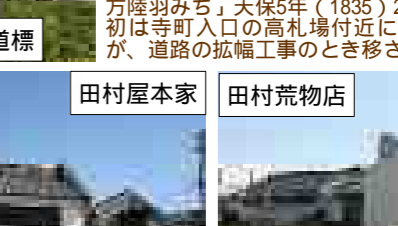
関根名主跡?



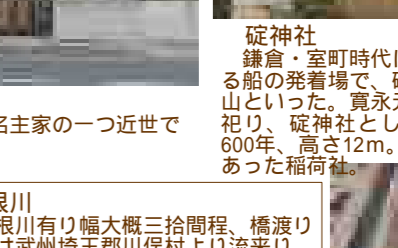
大落古利根川
 「宿内古利根川有り幅大概三拾間程、橋渡り也。此川水元は武州埼玉郡川俣村より流来り、流末は葛西砂村より中川江落る」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)
 かつて、隅田川は利根川の下流に位置しており、武蔵国と下総国の境界線となっていたと考えられている。埼玉県と東京都にある2つの古隅田川はかつては利根川・隅田川の一部であり、現在の河川に則すれば、古利根川から古隅田川(埼玉側)、元荒川、中川、古隅田川(東京側)、隅田川という流れが利根川及び荒川の主流であったと考えられている。



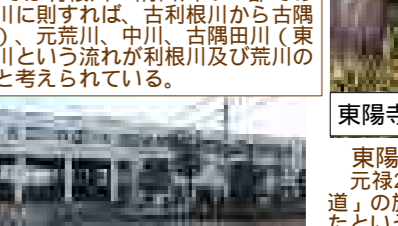
田村屋本家前道標
 「南西い八つき」「北日光」「東江戸右乃方陸羽みち」天保5年(1835)2月の道標。当初は寺町入口の高札場付近に置かれていたが、道路の拡幅工事のとき移された。



田村屋本家
 蔵造りの商家。歩道に道標がある。



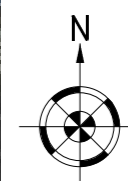
田村荒物店
 信号の右角にある。商家の蔵が川まで連なっている。



碓神社
 鎌倉・室町時代には古利根川を上下する船の発着場で、碓をおろすことから碓山といった。寛永元年(1243)に稲荷を祀り、碓神社とした。イヌグスは樹齢600年、高さ12m。関根名主家敷地内にあった稲荷社。



東八幡神社
 「宿の東辺に正八幡の社あり、宿の鎮守也」(日光駅程見聞雑記)
 一ノ宮交差点(一ノ宮とは東八幡神社のこと)から東八幡神社へ通じる道は「下の八幡様の参道」で以前は元禄9年(1696)造りの石鳥居が建てられていた。文化13年(1816)造りの石灯籠と再建の石鳥居が建つ。東八幡神社は下の八幡様・大砂(大門と砂塚)の八幡様。付近は砂塚とも呼ばれた。江戸時代力持ちの三ノ宮卯之助が天保3年(1832)奉納した力石がある。



21 粕壁宿~杉戸宿
 埼玉県春日部市
 八坂神社~小淵
 (歩行距離 2015m 25分)
 歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp

